科学技術融合振興財団助成金報告書

視点の移動を体験するコミュニケーション・ゲームの開発：

発達障がいを持つ成人を対象に

平成 31 年 2 月

安藤香織　冠地情　原佐知子　安達菜穂子

科学技術融合振興財団研究助成金報告書

「視点の移動を体験するコミュニケーション・ゲームの開発 : 発達障がいを持つ成人を対象に」

【研究実施期間】
2016 年 3 月～2019 年 2 月

【研究代表者】
安藤香織
奈良女子大学研究院生活環境科学系　准教授

【研究協力者】
冠地情
　東京都成人発達障がい当事者会　イイトコサガシ　代表
原佐知子
　発達障害者サポートネットワーク LINK、障がい児・者の医療を考える会がじゅまる
安達菜穂子
　大阪市立大学文学研究科

【学会発表】
安藤香織・原佐知子・冠地情・安達菜穂子　(2018.3.25)発達障がいのある成人のためのコミュニケーション・ゲームの開発：男女差の検討　日本発達心理学会第 29 回大会(東北大学)

【一般向け講演会の実施】
原佐知子・東田愛子　(2017.11.17)　発達障がいについて考える（奈良女子大学）
原佐知子・東田愛子　(2017.11.18)　発達障害のある人の可能性を探る（奈良女子大学）
冠地情 (2018.2.23) 発達障害を持つ人の生きづらさの本質「発達障害の僕から今、皆さんに伝えたいこと」 (奈良女子大学)
冠地情・笹森理絵 (2019.1.11) 発達障害と多様性　(奈良女子大学)

付録

1. 日本発達心理学会第 29 回大会発表抄録
2. 日本発達心理学会第 29 回大会発表資料
3. 2017 年 11 月 17 日講演会ポスター
4. 2017 年 11 月 18 日の講演会ポスター
5. 2018 年 2 月 23 日の講演会ポスター
6. 2019 年 1 月 11 日の講演会ポスター

1. 日本発達心理学会第 29 回大会発表抄録

発達障がいのある成人のためのコミュニケーション・ゲームの開発：男女差の検討

安藤香織[1]・原佐知子[2]・冠地情[3]・安達菜穂子[4]
1 奈良女子大学研究院生活環境科学系・2 がじゅまる・3 イイトコサガシ・
4 大阪市立大学文学研究科

目的

本研究では、発達障がいを持つ成人を対象として開発したコミュニケーション・ゲーム開発し、より実施しやすい形態を検討する。また、発達障がいを持つ女性が抱えるコミュニケーション上の問題を明らかにすることを目的とする。

方法

調査方法　2016 年 7 月～2017 年 1 月にかけて 7 回コミュニケーション・ワークショップを行い、参加者はワークショップ終了後に、質問紙に回答した。参加者は合計で 60 名であった。

ゲーム内容　1 グループ 6 名程度とし、さらにその中で 3 つのサブグループに分かれる。2 つのサブグループは、テーマについて反対と賛成の立場に立って議論を行い、残る 1 つのグループは議論の様子を観察し、両グループの良い点をフィードバックした。議論が終了したら立場を交換し、3 つのサブグループはすべての役割を体験した。今回の変更点として、事前に連想ゲームを行った。また話者がボールを持ち、次の人に渡すというルールを導入した。

調査内容　①ゲームの評価(5 項目 5 件法) 、②コミュニケーション特性(9 項目 5 件法) 、③個人属性

結果

属性　年齢 : 20 代～60 代以上(20 代～40 代が全体の約 75%)、性別 : 女性 28 名、男性 31 名、発達障がいとの関わり : 当事者 43 名、非当事者 17 名であった。

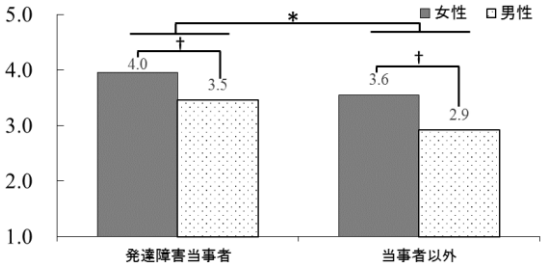
ゲームの評価　ゲームへの評価について、項目ごとに男女間、当事者と非当事者間で *t* 検定を行った結果、いずれも有意差はみられなかった。また、ポジティヴな項目の平均が高く 4 点以上であった。

コミュニケーション特性　コミュニケーション特性の尺度について因子分析を行った(Table 1)。因子 1 : 感情の読み取り困難(α=.80)、因子 2 : 積極的な意見表明困難(α=.73)の 2 因子構造となった。性別と発達障がいとの関わりを独立変数とし、感情読み取り困難の因子を従属変数とした分散分析の結果、性別と発達障がいとの関わりの主効果が有意で、男性より女性、当事者より非当事者の方が平均値が高かった。積極的な意見表明困難についてはいずれの主効果も有意ではなかった。

Table 1. コミュニケーション特性の因子分析

		因子1	因子2	共通性
5	相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手	.87	-.03	.75
6	相手が言っていることの意図がわからないことがある	.84	-.14	.72
9	コミュニケーションで困ったことはあまりない（R)	-.56	-.18	.35
8	自分が何を困っているかを把握し、それを伝えることが難しい	.51	.17	.29
7	自分の気持ちを説明するのが苦手	.46	.40	.37
3	複数での会話場面では聞き役になることが多く、あまり自分の意見を言わない。	.09	.82	.68
4	本当は相手と意見が違っても、なかなか自分の意見を説明できない	.29	.78	.69
1	興味ある話題だと自分だけが話し続けてしまう（R)	.27	-.46	.28
2	自分がリーダーシップを取ろうとすることが多い（R)	-.08	-.46	.21
	因子寄与	2.66	1.70	

Table 2. 感情読み取り困難の平均値



考察

発達障がい当事者及び女性は、感情を読み取ることが困難だと感じている場合が多いことが示された。女性は一般にコミュニケーション能力が高いと言われるが、女性の特性として、感情を読み取ることをより高い水準で求められているために、自分は感情読み取りが十分にできていない、と感じる人が多いと考えられる。女性の発達障害当事者については特に困難と感じる人が多く、女性であってもやはりコミュニケーションに難しさを感じていた。本研究で用いたような、感情読み取りを必要としないゲームについては、発達障害を持つ人であっても、非当事者と同様に困難を感じることなく参加して楽しむことが可能であることが示された。

2. 日本発達心理学会第 29 回大会発表ポスター

発達障がいのある成人のためのコミュニケーション・ゲーム開発：男女差の検討

安藤香織[1]・原佐知子[2]・冠地情[3]・安達菜穂子[4]

[1]奈良女子大学研究院生活環境科学系・[2]がじゅまる・[3]イイコトサガシ・[4]大阪市立大学文学研究科

目的

- 発達障がいのある成人を対象としたコミュニケーション・ゲームに改善を加え、より実施しやすくする。
- コミュニケーション・ゲームへの評価の男女差を検討する。
- 発達障がいを持つ女性が抱えるコミュニケーション上の問題を明らかにする。

方法

■ **調査時期**　2016年7月～2017年1月　　■ **参加者**　60名

■ **調査方法**

発達障がい当事者や関わりのある人を対象にワークショップを関東・関西で合計７回実施。コミュニケーション・ゲームを行い、その後アンケートに記入を求めた。

■ **調査内容**

個人属性（年齢・発達障がいとの関わりなど）、ゲームの評価、コミュニケーション特性を尋ねた。

■ **ゲーム内容**

３～６人が3つのグループに分かれ、2つのグループがあるテーマについての賛成と反対の立場に立って議論を行う。もう１つのグループはその様子を観察してそれぞれの議論の良い点を探し、それを発表する。立場を交替して3回同じテーマで議論を行う。

■ **ゲームの改善点**

コミュニケーション・ゲームの実施前に、議論のテーマをキーワードとして、連想ゲームを行う。それにより、賛成、反対の意見を考えやすくする。

ゲーム中には、発言者がボールを持つ。それにより、誰が発言するのかを明確にし、曖昧さを減少させる。発言が終わったら、次の発言者にボールを渡す。

結果

□ **ゲームの評価**　当事者と非当事者間に有意差はみられなかった。

ポジティブ項目は4点以上。
当事者も非当事者も、同程度に楽しめている。

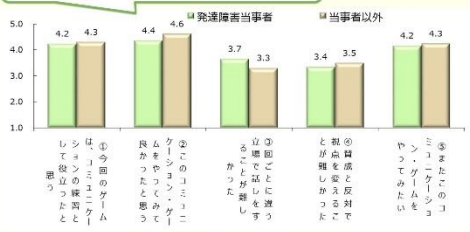


図1　ゲームの評価の平均値一覧

□ **コミュニケーション特性**

当事者＞非当事者($F(1,54)=3.83, p<.10$)
女性＞男性($F(1,54)=5.41, p<.05$)

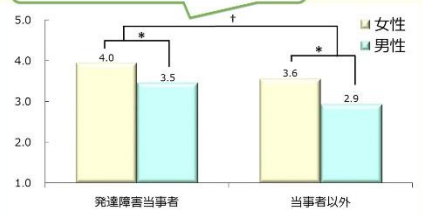


図2　感情読み取り困難の平均値

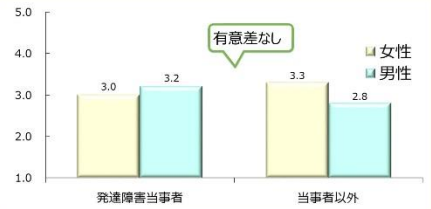


図3　積極的な意見表明困難の平均値

考察

● **ゲームへの評価**
- 男女差は見られなかった。男女とも、全体的に肯定的な評価だった。発達障害当事者と非当事者間の差も見られなかった。
- 改善点である、発言者がボールを持つというルールについて、誰が発言する番かわかりやすくて良かったという意見があった。
- このゲームでは感情読み取り能力を必要とせず、ゲームとしてストレートに意見交換ができるため、発達障がいを持つ人も楽しめたと考えられる。

● **日常のコミュニケーション**
- 発達障がい当事者も非当事者も、女性の方が男性よりも他者の感情を読み取ることに困難さを感じていた。
- 女性の方が他者の感情読み取りをより高い水準で求められているために、自分は感情読み取りが十分にできていない、と感じているのではないだろうか。

□ **参加者の個人属性**

・**性別**　男性31名、女性28名

・**年齢**　10代：2名、20代：11名、30代：15名
40代：17名、50代：8名、60代以上：4名

・**職業**　公務員：1名、主婦/主夫：2名、学生：3名、
自営業：3名、その他：7名、パート・アルバイト：11名
求職中・家事手伝い：12名、会社員：20名

・**発達障がいとの関わり**

表1　発達障がいとの関わり

	発達障がい当事者	家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいる	発達障がいに関わる仕事をしている	発達障がいに関わる研究をしている	特に関わりはない
女性	20	4	1	1	2
男性	23	3	2	0	3

表2　コミュニケーション特性の因子分析結果

		因子1	因子2	共通性
5	相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手	.87	-.03	.75
6	相手が言っていることの意図がわからないことがある	.84	-.14	.72
9	コミュニケーションで困ったことはあまりない（R）	-.56	-.18	.35
8	自分が何を困っているかを把握し、それを伝えることが難しい	.51	.17	.29
7	自分の気持ちを説明するのが苦手	.46	.40	.37
3	複数での会話場面では聞き役になることが多く、あまり自分の意見を言わない。	.09	.82	.68
4	本当は相手と意見が違っても、なかなか自分の意見を説明できない	.29	.78	.69
1	興味ある話題だと自分だけが話し続けてしまう（R）	.27	-.46	.28
2	自分がリーダーシップを取ろうとすることが多い（R）	-.08	-.46	.21
	因子寄与	2.66	1.70	

因子1：感情読み取り困難(α=.80)　因子2：積極的な意見表明困難(α=.73)

コミュニケーション・ゲームの感想

- ✓ 自分のスキルやコミュニケーション能力を補うのに適していると考える。(M)
- ✓ 相手の意見をおちついて聞くことができた。(F)
- ✓ いろいろな視点からいろいろな意見を探し出せたのが良かった。自分の意見も大体述べることができた。(M)
- ✓ 反論意見を言う時に相手のことを尊重しながら言えているので、とても良かったです。視点の移動のコツが少しつかめたと思います。(F)
- ✓ ハートの目印を渡し合うことで、普段喋らない私でも無理に頭をフル回転することが出来、喋るような場面を作らせて頂いたので修行になったかと思います。(F)

人とのコミュニケーションで困った体験

- ✓ 人の言葉の表面にとらわれてしまい、一番相手が伝えたいことが分からない　ズレた受け取り方をしてしまう。(F)
- ✓ 話の流れが読めない。話し手の気持ちがわからず、場にそぐわない話し方をしてしまい、人に不快な思いをさせたときがある。(F)

注：　F：女性　M：男性

著者の連絡先：　安藤香織　　andok@cc.nara-wu.ac.jp

＊本研究は科学技術融合振興財団より助成を受けた。

3. 2017 年 11 月 17 日講演会ポスター

4. 2018 年 11 月 18 日講演会ポスター

発達障害を持つ人の可能性を探る

日　時：11 月 18 日(土)
10:00～12:10

場　所：奈良女子大学
N302 教室

講演会スケジュール

・原さんワークショップ
・原さん講演
「発達障害を持つ人の就労支援」
・東田さん講演
「使える！ハッタツ！　～発達障害の特性を強みに」
・原さん東田さん対談

「発達障害を持つ人の就労支援」
原　佐知子さん

フリーランスライター。ミネルヴァ書房の『ふしぎだね!? 自閉症のおともだち(発達と障害を考える本)』シリーズを企画。第 4 巻まで編集にかかわる。
他にも発達障害にかかわる書籍や雑誌等の編集や取材・ライティングに携わっている。

「使える！ハッタツ！　～発達障害の特性を強みに」
東田　愛子さん

介護職。自閉症、ADHD の診断を受けている。中学生の子育て中。
発達障害当事者会「アスパラガスの会」のスタッフとして活動。
バリバラ（NHK Eテレ）出演経験あり。

奈良女子大学生活環境科学系安藤研究室主催講演会

5. 2018 年 2 月 23 日講演会ポスター

発達障害を持つ人の生きづらさの本質

「発達障害の僕から今、皆さんに伝えたいこと」

「思春期に知っておいてほしい…発達障害が悪循環に陥るほとんどのパターン」
「ニートより、不登校より、引きこもりより怖い、生き辛さの本質…それは退化硬直」
「自分の中にある可能性をゼロからイチに変えるワークショップを実演！」

どなたでも、お気軽にご参加下さい。

日時
2 月 23 日（金）
15:00～17:00
場所
奈良女子大学
生活環境学部会議室
（F 棟２階）
申込み　不要
参加無料

当日の流れ
✓ワークショップ
✓冠地さん講演
✓質疑応答

講師：冠地　情

1972 年生まれ。不登校・ひきこもり・いじめ・家での四冠王。イイコトサガシの代表。全国各地でいいところを探し、互いにほめるワークショップ＆講演会等を 43 都道府県で 1000 回以上開催。これまでに 10000 人以上が参加。NHK ハートネット TV にも出演。漫画と海外ドラマ、プロレスをこよなく愛する。

主催：　奈良女子大学　生活環境学部　安藤香織研究室
連絡先：　andok@cc.nara-wu.ac.jp

6. 2019 年 1 月 11 日講演会ポスター

発達障害と多様性

「普通」って何だろうか？冠地さんには、当事者としてのこれまでの体験を、笹森さんには発達障害と診断された頃の体験についてお話いただきます。

日時　2019年1月11日(金)　14時～17時(予定)
場所　奈良女子大学　E218-1教室
講師　冠地情　(イイトコサガシ　代表)
笹森理絵　(社会福祉士、精神保健福祉士)

「発達障害から「普通」を問い直す」
冠地　情さん

1972年生まれ。不登校・ひきこもり・いじめ・家での四冠王。イイコトサガシの代表。全国各地でいいとことろを探し、互いに応援するワークショップ＆講演会等を池袋を中心に43都道府県で1000会以上開催。これまでに10000人以上が参加。NHKハートネットTVにも出演。漫画と海外ドラマ、プロレスをこよなく愛する。

「発達障害の診断と障害受容について考える～当事者、保護者、支援者の経験から」
笹森理絵さん

当事者、母親、社会福祉士、精神保健福祉士、睡眠健康指導士の多様な視点を活かして発達障害ダイバーシティサポーターとして活動中

参加費：無料
申込：　以下のアドレスまで、メールでお申し込み下さい。
件名を「発達障害と多様性講演会申込み」とし、氏名、参加人数をお知らせ下さい。
Email　andok@cc.nara-wu.ac.jp
当日参加も可能ですが、参加人数把握のため、できるだけ事前申込みお願いします。

奈良女子大学生活環境科学系　安藤研究室主催
問い合わせ先：　安藤香織　　0742-20-3485
この講演は、科学技術融合振興財団からの助成を受けています。